

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEEあいち評価マニュアル(建築・改修・更新・解体) ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpl&bel) v.1.7_aichi

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	尾張東流通センター(株)加工場	階数	地上2F、平屋建
建設地	愛知県瀬戸市南山口町 640番 599	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	平均居住人員	200 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2014年11月4日
敷地面積	8,345.99 m ²	作成者	篠木正義
建築面積	1,926.45 m ²	確認日	2014年11月5日
延床面積	2,820.81 m ²	確認者	野々目時宗

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	96%
③上記+②以外の	96%
④上記+	96%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

音環境	2.6
温熱環境	2.7
光・視環境	2.2
空気質環境	2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

機能性	2.2
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物の熱負荷	N.A.
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.0
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源保護	3.4
非再生材の使用削減	2.9
汚染物質回避	3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

地球温暖化への配慮	3.1
地域環境への配慮	2.6
周辺環境への配慮	2.8

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>25.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	25.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	25.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境								2.6
1 音環境								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 負荷変動・過渡制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性				各作業場の作業内容により、適温設定した。				
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御								
3 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
3 ダニ・カビ等								
4 レジオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4 給気計画								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								3.0
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性					3.0	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					4.0	0.29			4.0
3.1 空間のゆとり					4.2	0.31			
1	階高のゆとり			ゆとりがあり、圧迫感のない階高を設定している	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				4500N/m ² 以上で計画している	5.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性					3.2	0.38			
1	空調配管の更新性				3.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			将来の改修を見据えた、更新しやすい計画としている	5.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40			2.4
1 生物環境の保全と創出		●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.1
LR1 エネルギー					-	0.40			3.4
1 建物の熱負荷抑制									
2 自然エネルギー利用					3.0	0.29			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用					3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用					3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				高効率化を図る設備システムを選定した。	4.0	0.43			4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					4.0				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.29			3.0
4.1 モニタリング					-	-			
4.2 運用管理体制					3.0	1.00			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.0
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				節水便器を採用し、水の使用量の削減に配慮した。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63			2.9
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●	②		3.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●			3.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.2	0.22			3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.68			
1 消火剤				不活性ガス消火剤の採用	4.0	0.33			
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33			
3 冷媒					3.0	0.33			
LR3 敷地外環境					-	0.30			2.8
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO ₂ 排出量に配慮して計画を行った	3.1	0.33			3.1
2 地域環境への配慮					2.6	0.33			2.6
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減		●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		●		敷地内に適切な駐車場台数の確保	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					2.8	0.33			2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1 騒音		●			3.0	0.33			
2 振動		●			3.0	0.33			
3 悪臭					3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					3.0	-			
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					2.3	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					2.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

尾張東流通センター(株)加工場

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 尾張東流通センター(株)加

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 室内温度・湿度を一定に保つために十分な気密性を持たせ、各作業場の室温設定に合わせ区画することで、安定した室内作業環境を計画するとともに、外気負荷低減による環境負荷の低減を図る。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 各作業場を区画する壁には、不燃断熱パネルを計画し、遮音性能を28db確保し、相互間の騒音の低減に配慮し、作業環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外装仕上げをALC板とし、長い更新間隔、高い耐久性をもつものとする。 また、ゆとりある階高により、設備の更新が容易となるようにする。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 既設の緑地帯を活かし、敷地周囲への環境負荷を抑制する。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な照明機器を採用し、照明エネルギー消費係数を低く抑えている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 非構造部材にリサイクル資材である高炉セメントB種を使用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に適切な駐車スペースを確保するとともに、ゆとりある場内通路幅、待機スペースの確保確保により、周辺道路への影響を最小限に留める。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特になし。